



フレンズ

山梨県立かえで支援学校相談・支援通信 第51号 平成26年3月18日発行

※「フレンズ」は、かえで支援学校の校歌(杉本竜一氏作)です。本校HPにてお聴きください。

今年度の教育相談・訪問支援等の実績報告

相談支援の内容・支援先	幼稚園保育園 (幼児)	小学校 (小学生)	中学校 (中学生)	高等学校 (高校生)	その他 (病院・過年生等)
教育相談・学校見学 (メール・電話も含む)	45人	25人	80人	3人	4人
訪問支援	72人	63人	15人	0人	0人
研修支援	4回	7回	2回	1回	16回
個別授業体験	36人	6人	36人	0人	0人

人数と
回数は、
のべ数
です。

* オープンスクール、夏休み授業体験会の参加人数は含まれていません。

・すべての相談支援の数の合計は、昨年度より 90 増加しています。

傾向 その1

校内委員会で検討された児童生徒について、相談する小学校が増えました。

傾向 その2

小学校からは、通常の学級で学習の遅れや行動上の問題がある児童の相談、「読み書き」の相談が増えました。気になる子も発達特性のある子も、全員が大事なクラスの子、全員を成長させようという考えの基、「学級経営」「わかる授業」の大切さをお話しすることが多かったです。

傾向 その3

中学生の相談は、高等部進学に関するものがほとんどでした。通常の学級や自閉症・情緒特別支援学級から本校への進学希望も何件もあり、既に二次障害を起こしている生徒もいました。また、明らかに知的障害があるのに通常の学級や自閉症・情緒特別支援学級に在籍していた生徒もいました。

進学間際になっての相談でなく、中学校在籍時から個に応じた学習や支援ができるように、気になる生徒で指導が上手くいかない場合には、早めの相談や対応をお願いしたいと思います。

傾向 その4

本校中学部に進学を希望している小6の保護者が、どのように進めたらいいか一人で困っている場合が多く見られます。私立中学への進学と異なり、特別支援学校に入学するかどうか検討している場合は、小6の先生も一緒に進学について考えていただき、特別支援学校や学級の見学や相談、体験等を行っていただきたいと思います。

傾向 その5

分教室(職業実践コース)か本校(生活・社会基礎コース)のどちらに進学するか検討するため、相談や授業体験を複数回行った生徒が増えました。

傾向 その6

幼稚園や保育園の相談園児は数多くいますが、実際に訪問したのは、5園です。その園は数年の継続支援の幼児も多く、先生や保育士と一緒に子どもの成長について考えています。年には数回の訪問ですが、園自体に特別支援教育の力がつき、言葉かけや教室環境づくり等適切になってきています。早期支援は大切であり、支援を早くすることで予後が良いことは確実なので、気になる幼児のいる園は、ぜひ御相談ください。

傾向 その7

今年度の高等学校の相談は3件で、すべて電話相談でした。

来年度から「高等学校に在籍する発達障害者等サポート事業」が始まります。かえで支援学校分教室は、新設校となると同時に高等学校サポートセンターとして県下すべての高等学校に対するセンター的機能を発揮することになっています。

詳細は、来年度情報提供します。



